

# 西国街道・東海田と瀬野川めぐり



- 1 海田市駅
- 2 ひまわり観音
- 3 背中合わせの神社
- 4 永山大学の墓
- 5 常本谷天満宮
- 6 畝街道松跡
- 7 西国街道常夜灯
- 8 春日神社
- 9 ふるさと館
- 10 桜木天満宮
- 11 二日市
- 12 市頭大歳神社
- 13 中店橋水門
- 14 九十九橋



# 西国街道・東海田と瀬野川史跡

## 1 海田市駅



明治36年海田線開通直後

海田市駅は明治27年(1894)に山陽鉄道が開通し、36年(1903)には其線が開通した鉄道の結節点として誕生した。また、海田市が物資の流通拠点の役割を果たし栄えた。今では「海田市」の名が残る唯一の場所となった。

## 2 ひまわり観音

建立時期は平成元年(1989)で、観音さんの高さは13m(台座6m木尊7m)で小高い所に立っており海田の町を優しく見守っている。名前は町花「ひまわり」をあらわしている。



### ■ 薬師寺

宗旨は曹洞宗、本尊は薬師如来、明和6年(1769)水月庵薬師堂として開基、明治41年(1908)現在地に空宇を建立した。

### ■ 真福寺観音堂

古くは奥の谷にあったが、延宝3年(1675)8月の洪水で流失。その後木尊が掘り出され現在地に安置された。



### ■ 住ヶ崎苦太夫の墓

海田市出身の相撲取りで大坂角力の前頭3枚目まで出世した。没年:天保6年(1835)  
\*真福寺左手角にあります。



## 3 背中合わせの神社

### (恵比須神社・荒神社)

手前が恵比須神社で由緒は不詳である。祭神は言代主命で昭和17年番障寺より移転した。奥が荒神社でこちらも由緒は不詳である。祭神は奥津彦神・奥津媛神で文化11年(1814)同郡志志山飯に荒神社成木とある。これら二つの神社は背中合わせで建っている。



## 4 永山大学の墓

剣術家永山大学は元和9年(1623)に豊後(大分県)竹田に生まれ、13歳で心算流を極め後に信抜流と改め、諸国を遊歴した。



## 5 常本谷天満宮

祭神は菅原道真、天正年間(1573~1592)に勧請され、一時期廃社となったが後に再建され現在に至っている。社務所前のお牛様はたいへん立派である。



## 6 敵街道松跡

寛永10年(1633)に主要街道が整備され、街道には一里塚が設けられ、街道松も植えられた。海田に残る最後の街道松は「名残の一本松」と呼ばれていたが、昭和61年(1986)に伐採された。右の写真は昭和60年頃の写真である。



## 7 西国街道常夜灯

文政8年(1825)に春日神社に本納され、西国街道に面して残っている。この常夜灯は昼夜を問わず旅人が往來する当時の街道の様子を私たちに教えてくれる。



## 8 春日神社

祭神は天津児屋根命・布津主命他で、市緒・勧請年月は不詳であるが、鎌倉時代初め、当時の日浦山城主の小坂治部之丞が城の鎮護として、貞応2年(1223)に大和国(奈良県)春日大社より勧請と伝えられている。



### ■ 頂戴(御神輿)

子供会や学校学習の折々に地域の世話役の人たちによって頂戴を公開している。頂戴は神社裏手に格納されている。



## 9 ふるさと館

海田のルーツを集め展示しているミュージアムで、裏の「海田観音免のクスノキ」は樹齢数百年で樹高30m・幹周6.6mあり【海田町の町木】に指定されている。



直ぐ脇には海田観音免第一、第二号古墳が保存されており、斜面に建造された田垣と推定される。出土品から7世紀頃建造と推定され、完全な状態で残っていれば広島湾沿岸では第一級の横穴古墳であったと推測されている。

## 10 桜木天満宮

天文3年(1534)に瀬野川の大洪水により御神体が桜の木に乗り川中に流れ着き、地元の人々によって祀られた。御神体に梅鉢の紋が見られることから、学問の神として知られる「菅原道真公」を御神体とする天満宮として神殿を擁立崇め奉られている。



## 11 二日市

(現・蟹原浄水場付近)

中世には現在の蟹原にある浄水場付近が二日市とよばれ、暮らしの中心地といわれている。この付近まで海がいくも磯で、後に近世に於いて人口が増えるに伴い干拓が始まり新開地を造成していった。



## 12 市頭大歳神社

市頭大歳神社の祭神は大國主命であり、御神体は亀の形をした岩(亀石)で、享和年中(1801~1804)に創建された。



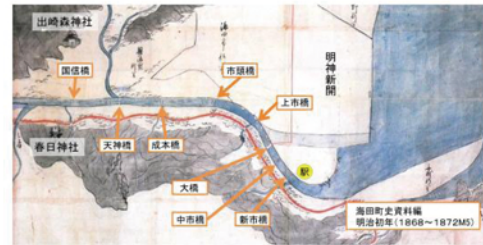
## 13 中店橋水門

瀬野川から船越へ水を送るために現在の浜の通りと呼ばれている道の下の水路のための水門である。



## 海田の橋の変遷

明治初年頃の図(海田町史資料編)を見て多くの橋が架けられていることが分かる。



昭和30年代前半 瀬野川河口部の橋



## 14 九十九橋

九十九橋は古くから海田市の発展に重要な役割を果たしている。橋梁鉄骨は山口県光市にあった旧海軍工廠の鉄骨を使っていると言われていた。戦時中に攻撃された時の弾痕が残る貴重な材料が使われている。



## ガイドのご案内

### ◆ 定時ガイド

実施日時: 毎月第3土曜日 9:30~

所要時間: 2時間半程度

集合場所: JR海田市駅北口

申し込み: 1週間前までに海田町魅力づくり推進課へ

募集人数: 20名(先着順)

参加費: 100円/1人

### ◆ 随時ガイド

所要時間: 2時間半程度

集合場所: JR海田市駅北口

申し込み: 2週間前までに海田町魅力づくり推進課へ

募集人数: 5~20人のグループ

参加費: 100円/1人

TEL:082-823-9234

FAX:082-823-9203